

## < 4月5日 家庭礼拝の手引き >

本日は、以下のプログラムで家庭礼拝を捧げましょう。

インターネットに接続できる方は、11時に開始する牧師の説教などをライブ配信（生放送）で見ながら礼拝を捧げることもできます。出席はできません。視聴方法は別ページに記しています。

### 1. 礼拝の進め方

礼拝プログラムは次の通りです。このプログラムに沿って、賛美を捧げ、祈り、聖書を読みましょう。説教の部分は、説教要旨を読みましょう。

### 2. 礼拝プログラム 受難週

招 詞 ゼカリヤ書 9:9-10 節

賛 美 歌 新生 214 喜べや たたえよや

主 の 祈 り

感謝の祈り

聖 書 ルカ福音書 19 章 28-40 節(新 147 頁)

メッセージ 「ろばの子に乗って」

説教要旨を読みましょう

祈 禱

祈りの課題を読み祈りましょう

賛 美 歌 新生 223 主イエスは尊き

黙 禱

### 3. 祈りの課題

- 新型コロナウイルスの感染が収束し、苦しみと不安の中にある人が守られるように。安心して通常の礼拝を捧げることができますように
- 教会員、教会に連なる方々がご家庭で家庭礼拝を捧げ、信仰と愛と一致が守られるように
- 日本をはじめ全世界で感染に苦しむ人々のために。全世界の教会の礼拝のために
- 受難週を迎えました。主がわたしたちのために苦難を受けられたことを覚えて。主の復活を喜び、次週、イースターを迎えることができるように
- 教会に連なるご高齢の方、お一人暮らしの方、施設に入所されている方のために
- 新年度を迎え、新しい歩みを始める方々のために、学校で学ぶ若い方々のために
- 今後の教会の礼拝・教会活動の方針について協議を重ねている執事の方々のために

### 4. 説教要旨

受難週を迎えました。イエスさまが十字架にかかられた金曜日を迎えます。イエスさまは、神の子であったのに、苦しみ、嘲られ、捨てられていきました。イエスさまは神の子としての力を持ちながら、それを使いませんでした。むしろ、罪と過ちに満ちた人間が救いに至るために、ののしられてもののしり返さず、捨てられても見捨てない十字架の道を歩まれました。イエスさまの、そして神さまの静かな熱情が、十字架に向かう日々の中で、描き出されています。

イエスさまは、エルサレム入城の際、ろばの子に乘りました。エルサレムまではあと僅かです。ろばに乗る必要はありません。しかし、二人の弟子を遣わして、“まだ誰も乗ったことのないろばを連れてくるように、何か言われたら「主がお入り用なのです」と言えば良い”と命じました。そして、そのとおり、向こうの村に誰も乗ったことのないろばがいました。不思議な備えがありました。それは、ろばに乗ってエルサレムに入ることが、神ご自身の導きの中で起こっていることを示しているのでしょう。

「ろば」、聖書の中では大切な家畜、財産です。主に荷物の運搬や、農作業のために使われます。しばしば人はろばに乗って移動しました。ろばは粗食に耐え、長命で、暑さに強く、丈夫でたくましい家畜です。しかし、人が乗る動物としては、馬の方がろばに勝り、戦時には馬が使われました。

だからこそ、イエスが馬にではなく、ろばに乗ってエルサレムに入られた事に、深い意味を感じます。それも子ろばでした。まだ小さすぎて人がその背に乗ったことがない小さなろばです。きっと、このろばの子は、イエスさまを乗せて、必死で歩いたことでしょう。イエスさまは30歳くらいですので、大の大人です。そんなイエスさまを必死に乗せて、ろばはエルサレムに入る。人々の歓声、歓喜の音が響いても、人々が自分の着物や棕櫚の葉を道に敷いてその舞台を整えたとしても、ろばの子に乗ったイエスの姿は、きっと滑稽で、愚かしさを感じる姿だったでしょう。しかし、ここに深い意味があります。

これは、旧約聖書のゼカリヤ書9章9-10節に預言されていた姿でした。1489 ページです。

「娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者。高ぶることなく、ろばに乗って来る。雌ろばの子であるろばに乗って。わたしはエフライムから戦車を、エルサレムから軍馬を絶つ。戦いの弓は絶たれ、諸国の民に平和が告げられる。彼の支配は海から海へ、大河から地の果てにまで及ぶ。」

神は、人々を圧倒する力にではなく、弱さ、愚かしさの中にある力を見るようにと、私たちを教えます。この弱さ、愚かしさこそ、十字架に結びつく救いの力、神の力があるのです。

十字架のイエスさまは、まさに弱さの極み、愚かさ、呪いを身に負いました。神の子なのに、「他人を助けたのに、自分を助けない」と笑われ、嘲られ、弟子たちからも見捨てられ、絶望の叫びを挙げて敗北の死を遂げたと思えない死に方でした。イエスさまご自身、神の力を持っているのに、その力を使わない。ご自身、正義と愛を持っているのに、その主張をしない。その方が十字架という愚かしい姿で私たちを救おうとしておられる。それ故に、わたしたちは、神を裏切り、神に背き、大事な場面で逃げ出してしまふわたしたちの罪を背負って下さったと言えるのです。罪に満ちたわたしたちを愛して下さるイエスさまの姿が私たちの心に触れるのです。神の熱情が、この十字架に、無力な姿をさらすイエスさまの中に見えてきます。ろばの子の背に乗ってエルサレムに入られるという弱さ、愚かさ、滑稽さは、十字架で私たちの罪を贖うために身代わりに裁きを受けられたイエスさまの弱さ、愚かさです。

ろばの子に乗って、エルサレムに入城するイエスさまの、弱々しく愚かで滑稽な姿の中に、私たちは、静かなる神の力を見ます。愛するために忍耐し、苦しみを自ら負って、人々を生かしめようとする神の愛がそこに見えます。十字架のイエスさまの苦悩と結びつく、神の力、神の愛を見ます。

私たちは神のまことの「力」を、ろばの子に乗るイエスさま、十字架のイエスさまに見ていきましょう。そして、私たちもこの方と同じように、自らの弱さ愚かしさをさらしながら、そこで働かれる神の力に目を留めて、受難週を過ごしましょう。これこそ、復活の朝、イースターの朝へと続く道なのです。